

## ジャパンカップ

- ・日本の G1 でも何頭も実績を残している血統
  - ・欧州のタフな 2400m では失速。
- 2000m 前後の方が高いパフォーマンスを出せる馬

これが外国馬が走る条件。  
これを完璧に満たす馬は過去 10 年の JC には  
出ていませんでしたが、今年は違います。

本命はオネスト。

父はフランケル。JRA のレースに出走した産駒は 56 頭。  
この少数の産駒から、モズアスコット、ソウルスターリング、  
グレナディアガースの 3 頭が G1 レースを優勝。

重賞連対馬も 6 頭。重賞出世率はディープインパクトをも上回ります。

さらに、モズアスコットは安田記念を勝ち、  
ソウルスターリングは JC と同コースのオークスを優勝。  
JC で重要な東京芝 G1 実績も十分。

3 代母は Kerali。世界のスーパー繁殖牝馬 Hasili の母。  
同牝系にファントムシーフ(ファントムシーフも 4 代母は Kerali)

ファントムシーフもサンデーの血を持たずに、  
速い上がりで高いパフォーマンスを出している点も見逃せません。

前走で JC とは真逆と言っても過言ではない  
凱旋門賞で惨敗したのも買い材料。  
JC とは相反するタフなレースへの強さは  
あまり遺伝していない可能性が高いからです。

日本馬は、ほぼ人気順で決まるのが例年の傾向。

牝馬か 4 歳以下の 1-3 人気は過去 5 年すべて馬券圏内に。

今年も日本馬の中なら当レースに強いトニービンを持ち、  
天皇賞秋を使うステップも有利なダノンブルーガ。

続いてシャフリヤールの順に評価。

ただ、シャフリヤールは昨年以上のパフォーマンスは望み薄なので、  
そのレベルならオネストの方が上という見立て。

ヴェラアズールは近親にアヴェンチュラ、フサイチホウオー、トールポピー。  
力のある牝系で底を見せていない状態。加えてムーアで上昇すれば。

## 京阪杯

阪神芝 1200m(2020 年以降)の  
種牡馬ランキングは 1 位がロードカナロア。

同コースで行われた当レースも産駒が 2 年連続で馬券に。

本命はファストフォース。

ロードカナロア産駒。母父はサクラバクシンオー。  
当コースの母父ランキング 1 位。馬券期待値も優秀。

と、昨年も述べて、当レースでも本命に推奨したわけですが、  
昨年は結果的にファストフォース以外の 4 着以内馬は  
すべて 3 コーナーが 2 桁位置取りの追い込み馬。

展開が厳しいながらも 3 着(6 人気)に頑張りました。

カナロア産駒は高齢になっても同じコースの  
重賞を何度も走りやすい特徴も持ちます。

ジャパンカップを 2 勝した  
アーモンドアイは規格外すぎるとしても、  
ダノンスマッシュ、ダイアトニックも同じコースの重賞を  
複数回馬券圏内に走っています。

土曜の傾向から、枠順も有利になる可能性が高そうです。